
HUNTER × HUNTER 思慮深きハンター

桜川リマ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

HUNTER×HUNTER 思慮深きハンター

【Nコード】

N2331Y

【作者名】

桜川リマ

【あらすじ】

憧れのビーストハンターを目指してポンズと頑張るケルト

ビーストハンターになりたいと願う理由

ポンズと共にいたいと思う願い

ゴンたちのかけがえのない仲間

クラピカという過去の親友との再会

それを胸に秘め頑張るケルトのお話です

一話 ケルト×ポンス×ハンター試験（前書き）

アニメ化（祝）二回目ってことで書いて見ました

一応何となく書いたものなので読者が絵が良くなければやめてしまいます！！

これは恋愛もありますが、念に力をいれようと思ってます！！

一話 ケルト×ポンス×ハンター試験

「ねえ、ケルト。どうやって行くんだっけ？試験会場」

「自分で考えるよポンス」

「そんなこと言ってるど蜂で刺すわよ」

「わあ〜ごめんごめん！！謝るからしまっで！！確かここで定食頼むんだよ」

「合言葉は？」

「ステーキ定食で合言葉は『弱火でじっくり』」

一組の男女がさびれた定食屋に入って行く

男性の方は、ケルト

女性の方は、ポンスというようだ。

ケルトの容姿は整った顔立ちに髪の毛を後ろで結び、帽子を深くかぼってだらしがない。

背はポンスよりは大きい一般的なには低いだろう

「おっさん。ステーキ定食二人前。あ〜弱火でじっくりね」

「あいよ。奥の部屋に行きな」

二人は言われた通りに奥の部屋に行く

中には既にステーキ定食が置かれていた。

中に入ると突然部屋が下がり始めた
部屋したいがエレベーターのようだ

「ぶっちゃけケルトはどこまでいけそうなの？」

「いいとこ4次試験じゃない？ポンスは？」

「私は、狙うからにはハンターになりたいけど．．．．．3次試験だと思っ。そういえば、試験中の二人で決めたルール覚えてるわよね？」

「ああ、手を取り合えるところは協力する。でも敵対することがあったら手を抜かないだろ」

二人は幼馴染というやつであり、まあまあ仲が良かった。
ぶっちゃけるとケルトはポンスのことが好きであるのだが向こうは知らない

「でもこのステーキ定食美味しいな。ポンス、ハンター試験、合格するぞ！！二人で！！」

「ええそうね。．．．．．って何であんたはそういうことをいきなりいうのよ！！もっとムードを考えなさい」

「あう．．．．．ごめん」

そんなやり取りをしていると100Fの表示でエレベーターが止まった。

外に出て受験番号をもらう

245ケルト

246ポンスとなった。

周りにいるハンター志願者たちを見て息を呑むポンスと全く気にせず周りを見渡しているケルト

「結構遅い方が。あと何人くるかわからないけど時間あるな」

ふとケルトからあくびが漏れる

ケルトはここまでずっと試験会場を探していたため疲れが溜まっていたのだろう。

それをしっぺかポンスもケルトをすみに連れて行った。

「ケルト。疲れてるんだっいたら少し眠りなさい。」

「寝るっていつてもなくきつと集まったら試験にしる移動にしる長距離走はするだろうから身体固めたくないな」したに引くものはあつても、まくら無いからパス」

ケルトは周りを見渡し一瞬で判断する。

洞察力、思考力ではハンターたちの中でもトップに入るだろう

「そうなんだ。だ、だったら私の膝を使いなさい！！ここまで頑張ってきたのは見てたから。それくらいはしてあげるわよ」

「いや、そうするとポンスの足が痺れて走れなくなっちゃうよ」

顔を赤くして言うポンスだがケルトはそれを断る

「だったら私が走れなくなったら、ケルトがおぶってくれればいいでしょ！！早く使いなさい！！じゃないと薬使っても眠らせるわ

よ……」

「そ、それは困る。じ、じゃあ使わせてもらっぞ」

「うん」

ケルトは自分のバックから毛布をとり出して地面に敷く
その上にポンズを座らせ自分も横になった。

「あ、暇だったら俺のところから本を取り出して読んでいいぞ」

「う、うん」

ケルトはそういうと夢の世界へと旅立って行った。

「全く私が薬使いだって知ってて私の前で眠るとか笑っちゃうわよ
ね」

ポンズは一人笑ってケルトのバックから本を一冊取る。

「まあ私もケルトを信用しているから同じか」

ポンズは音を立てないように本を開いた

一話 ケルト×ポンス×ハンター試験（後書き）

設定

ケルト

長い髪を後ろに一纏めにして帽子を深くかぶっている

理由は、クルタ族の生き残りのため目を隠している（コンタクトレンズも使用）クラピカとも幼少期の頃仲が良かったが7歳の時、移住してしまったため当初誰だかわからなかった。

両親は村にケルト一人置いて里帰りをしているところを蜘蛛に襲われて死ぬ

父親はクルタ二刀流の師範代であったためケルトも強い

戦い方はクルタの古来から伝わる刀（月夜と太火）二本でクルタ二刀流を使う

ポンスは移住先での幼馴染であり仲が良い

ケルトは秘かに恋心を抱いている

とても思慮深く優しく頭が良い

背の低さを嘆いている

感想や評価ください！！

自信があまりないので書いてしまうかもしれませんが！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2331y/>

HUNTER×HUNTER 思慮深きハンター

2011年11月5日03時16分発行